発行所 幸福実現党本部 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-8 電話 03-6441-0754 ©幸福実現党本部 2015年 平成27年5月11日

幸福実現NEWS

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS ［党員限定版］第68号

2015 統一地方選を終えて

公認5名、推薦3名 当選

新たな国づくりは、新たな街づくりから

当選した公認候補者

再選 二期目

北海道幕別町（まくべつ） 町議
小島智恵（ちえ）氏
（34歳・町議会議員）
「教育改革」に力を入れた街づくりを目指します。

初当選

埼玉県三芳（みよし）町 町議
細田三恵（みつえ）氏
（47歳・元外交販売員）
高齢者の方がイキイキと働ける三芳町にしていきます。

初当選

長野県駒ヶ根（こまがね）市 市議
塩沢康一（こういち）氏
（42歳・鍼灸師）
地域の幸福実現を願って、精いっぱい努力いたします。

初当選

愛知県東浦（ひがしうら）町 町議
原田悦子（えつこ）氏
（59歳・宗教法人幸福の科学支部長）
「この街が大好き」と言っていただける町政を目指します。

初当選

石川県津幡（つばた）町 町議
井上新太郎（しんたろう）氏
（68歳・医院事務長）
住民一人ひとりの悩みやご意見に耳を傾けてまいります。

幸福実現革命へ向け、一歩進める

今年４月の統一地方選挙におきまして、わが党は全国の皆様よりご支援を受け、地域の皆様の幸福実現のため、戦いを進めてまいりました。そのお力添えにより、公認 40名、推薦 15名を擁立し、公認５名、推薦３名が当選を果たしました。

加藤幹事長は、選挙結果について以下のようにコメントしました。「今回、皆様のご支援、ご尽力により、複数名の当選者が誕生いたしました。しかし、残りの候補者につきましては厳しい結果となり、幹事長として、ひとえに責任を痛感する次第であります。

今回、厳しい選挙戦を勝ち抜いて見事、当選を果たす候補者が全国に複数出たことは、私たちにとって大いなる喜びであり、また、幸福実現革命の成就に向けた誠に意義深い、大いなる一歩でもあります。今後は当選者たちを筆頭に、新しい国づくりの思いを市政・町政に具体化してまいります。

今回の地方選をしっかりと総括し、次へとつなげてまいります。多大なるご支援、ご協力をいただきました皆様には心より感謝申し上げます」

さらなる飛躍に向けて、党としての課題解決に取り組む

今回の選挙では大きな前進を果たしましたが、釈党首は、今後のさらなる飛躍に向けて、党として課題解決に取り組んでいくとコメントしました。「幸福実現党として、自己変革が必要となっています。特に、候補者一人ひとりの姿勢や考え方、組織としての活動のあり方のなかで、宗教政党としての力を十分に生かし切れていない点を改善してまいります。

また、有権者の皆様に日ごろから丁寧に接し、お一人おひとりのお困りごとや、お願い事をしっかりと耳で聴いて、誠実に具体的にお応えしてまいります」

皆様から信頼いただける政党を目指して

また、釈党首は、今回の統一地方選をステップとして、今後の抱負について以下のように語りました。

「わが党が、国民の皆様から信頼いただける国民政党となり、輝かしい日本の未来を切り拓く力となっていくべく、どこまでも精進に精進を重ねてまいります。

また、来年の参院選勝利に向けましては、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます」

幸福実現党は、未来型責任政党へと飛躍することを目指して、今後とも全力を尽くして戦ってまいります。

〈幸福実現ニュース〉は幸福実現党の機関紙です。1、2面はネットからダウンロードもできます（無料）。
※幸福実現党の党員の方には、全4面のペーパー版が郵送されます（党員登録が必要です）。
PDF版ダウンロード(無料)はこちらから http://info.hr-party.jp/newspaper/

『いい国つくろう、ニッポン！』発刊インタビュー

日本を太陽のように輝く国へ

大川紫央総裁補佐と釈量子党首の共著による最新刊が発刊。
同書に込めた思いを、釈党首に訊きました。

釈 量子 1969年生まれ。國學院大學文学部史学科卒業。大手企業勤務を経て、1994年に宗教法人幸福の科学に入局。『ザ・リバティ』編集部、学生局長、青年局長、常務理事などを歴任。2013年7月より現職。

戦後 70 年の今、日本のあるべき姿を語り合う

「イスラム国」による日本人人質事件や沖縄米軍基地移設問題など、日本としての在り方を問われる問題が国内外で続いています。そうした世相を見るに、いま必要なことは、政界の利権や、戦後教育の影響、マスコミ世論などのしがらみを超えた、日本のあるべき姿についての率直な議論ではないでしょうか。

本書では、「いい国つくろう」とあるように、「戦後 70 年経ち、この国はどうあるべきか」を大川紫央総裁補佐と本音で語り合いました。

日本は“新たな冷戦”に備えよ

国内外の情勢、経済、政治は日々変わっていくので、「現状維持こそが平和である」という考えは間違いです。

特に、現在、経済的・軍事的に台頭する中国の勢力圏と、日米の勢力圏とによる“新たな冷戦”が始まろうとしています。

今年 4 月、中国が設立を主導する AIIB（アジアインフラ投資銀行）に、欧州諸国など 57 カ国が参加しました。その意味するところは、アメリカ主導の IMF や、日米主導の ADB（アジア開発銀行）、TPP などに対抗した中国による国際秩序への挑戦です。

4 月 12 日、ユートピア活動推進館で行われた発刊記念セミナーの様子。釈党首は七海ひろこ財務局長と対談した。

また、中国は、日本の石油輸入量の 80% が通る海上輸送路「シーレーン」を包囲するように AIIB 参加国を増やしています。「シーレーン」を含むアジアの海域を支配されれば、中国の手によって日本の石油輸入が止められかねないものとなります。日本としては、「シーレーン」防衛のためにも、沖縄の米軍基地は重要なのです。

日本の新たな国づくりを目指す

そうした問題を解決するには、トータルな戦略や個別な戦略が必要であるとともに、「地球全体から見た正義はどこにあるのか」を問わねばなりません。そうしたとき、「神仏はどう世界を見ておられるのか」という視点に行き着かざるをえません。本来、政治と宗教は一体のものです。仏教の教えの「正見」とは、ありのままに物事を見ることですが、リアリスティックに見て、今やらなければならないことを正直に対応するところが幸福実現党の強みです。

私たちは、政治を素晴らしいものとすることで、日本が太陽のように世界を照らす国になれると信じています。そうした新たな国づくりとして、わが党では、戦後 70 年の本年、自虐史観を払拭し、日本の誇りを取り戻す活動に力を入れています。どうか、私たちの活動に、お一人でも多くの皆様のご賛同をお待ち申し上げる次第です。

ペリリュー島訪問レポート

3月21日から 25日にわたるパラオ共和国・ペリリュー島を訪問した釈党首に、今の思いを訊きました。

自虐史観を糺し、祖国を守った英霊の名誉回復を

クニオ・ナカムラ元パラオ共和国大統領と

先の大戦当時、パラオ本島にいたサントスさんにインタビューを行った

今も留められている戦跡を視察した

祖国愛のため奮闘した英霊の姿に涙した

今年 4 月の天皇皇后両陛下のご訪問に先立ち、3 月下旬、ペリリュー島に赴きました。

ペリリュー島は、先の大戦屈指の激戦が行われた地です。米軍約 4 万人に対し、中川州男大佐率いる日本軍守備隊の約 1 万人は、洞窟を陣地として使うなどしながら 70 日以上にわたり徹底抗戦しました。

私は激しさを物語るペリリュー島の戦跡を巡り、英霊たちが祖国愛のために必死に戦ったことを知って、思わず涙しました。

同島には、英霊たちの遺骨がいまだ 2600 柱ほど残されています。日本政府に対しては、国家の責任としてすみやかに遺骨収集を進めとともに、英霊の御霊をなぐさめるべく、天皇陛下の靖国神社御親拝再開へ向けた環境整備を行うことを求めます。

懸念されるパラオの安全保障

また、今回、私がパラオを訪れて驚いたことは、中華系の進出でした。

都市部には中華系のホテルが溢れており、街を歩けば中国人だらけ。パラオは人口わずか 2 万人余りの島国です。産業もなく、出国税・環境税などの税収や、観光・ダイビングなどのレジャー産業を生業としています。そこに中華系の外資が流れ込んでいるのです。

また、中国は、第二列島線といって、伊豆・小笠原諸島からグアム・サイパンを経てマリアナ諸島群を結ぶ海域を自国の領域にするという意思を表示していますが、パラオはその第二列島線の南端にある島なのです。

そして、パラオは 1994 年に独立していますが、日本には、パラオ独立をモデルに琉球独立論を唱える識者もいます。琉球独立運動とは、沖縄が中国に組み入れられる流れにほかならず、日本及びパラオなどの、この海域に位置する国々の安全保障についても懸念を持たずにはいられませんでした。

自虐史観を一掃し、憲法改正への機運を作れ

戦後 70 年経ち、日本は自国の安全保障の手足すら縛る体制を変えていかなければならないでしょう。憲法改正を目指し、まずその前段階として、先の大戦で日本がアジア諸国を侵略したという「自虐史観」を払拭しなければなりません。

先の大戦は、わが国の正当な自衛権の行使としてなされたものです。幸福実現党としては、こうした誤った歴史認識を糺すため、現在、自虐史観を一掃するための署名活動を全国で行っています。その署名により、安倍晋三首相が今夏発表する新談話に対し、河野・村山両談話を白紙撤回し、正しい歴史観に基づく日本の姿勢を内外に鮮明にすることを要求します。

ペリリュー島にて、英霊への供養のため大川談話を読み上げた

ペリリュー島の日本人慰霊碑にて祈りを捧げる

わが党は、今後とも、こうした日本の歴史観を見直す活動に全力で取り組んでいく所存です。